



## 経済学部創立20周年記念祝賀会盛大に開催

去る3月24日(日)午後6時30分より、経済学部創立20周年記念祝賀会兼懇親会が、都ホテル「紫雲の間」で開かれた。

会には、本山前市長を始め、前学長、名誉教授、後援会長、元事務局長、同窓生、卒業生並びに学内関係者等約300名の方々が出席され、会場は終始熱気につつまれた。

オーケストラ部の演奏で幕があき、主催者を代表して村田経済学部長の開会挨拶、柴田学長の挨拶と続き、本山前市長からの来賓祝

辞のあと乾杯に移り祝宴に入った。

高木健太郎前学長始め5名の方々から熱意のこもった祝辞が次々と述べられると酒宴は盛況を極め、興奮さめやらぬなか栗野会長の挨拶により約2時間に亘る祝宴の幕を閉じた。

- |       |       |
|-------|-------|
| 一次 第一 | ○乾 杯  |
| ○開会挨拶 | ○来賓祝辞 |
| ○学長祝辞 | ○沿革紹介 |
| ○来賓祝辞 | ○合 唱  |
| ○奏 楽  | ○閉会挨拶 |

昭和59年度

通常総会議事報告

日時 昭和60年3月24日

場所 名古屋都ホテル

通常総会が、期末に行われた理由は、経済学部創立20周年及び第18回卒業記念祝賀会を盛り上げる為に、卒業生の一層の参加を得ることができるよう同じ日にしました。

経過報告・事業計画

瑞山会追録・会報の発行、卒業アルバム・祝賀会の補助など例年の事業と瑞山会協賛OB会ゴルフコンペ、名古屋市役所内に支部結成の報告が行われた。

会計報告 8頁に掲載

理事紹介 会則により選任されました。

会 長	栗野 泰次	1期	大山ゼミ
副 会 長	坂野 修	2期	山本ゼミ
"	山田 雅也	3期	松永ゼミ
"	八木 得三	5期	山本ゼミ
庶務部長	中村 正治	5期	木村ゼミ
副庶務部長	蒲野 鎮	12期	宮川ゼミ
庶務部	近藤 常夫	1期	平田ゼミ
"	渡辺 尚泰	2期	柴田ゼミ
"	浜田 茂	5期	柴田ゼミ
"	伊藤 孝	6期	山本ゼミ
"	杉本 仁	8期	藤田ゼミ
"	荒深美和子	9期	木村ゼミ
"	倉知 弘美	14期	松永ゼミ
"	木村 剛	15期	辻ゼミ
編集部長	手塚 祥郎	1期	牛嶋ゼミ
副編集部長	上野 恒男	2期	大山ゼミ
編集部	柳原 茂	1期	松永ゼミ
"	多和田 真	4期	岡崎ゼミ
"	鈴木 正彦	7期	芝原ゼミ
"	田中 喜夫	7期	岡崎ゼミ
"	佐藤 克己	8期	"

編 集 部	西尾 正人	13期	松永ゼミ
"	石川 雅子	13期	牛嶋ゼミ
"	松川 倫典	16期	塩見ゼミ
"	服部 篤典	18期	安藤ゼミ
事業部長	逸見 和弘	1期	松永ゼミ
副事業部長	都嶋忠比古	3期	山本ゼミ
事業部	杉浦 晴義	5期	松永ゼミ
"	木村 新作	5期	岩橋ゼミ
"	加藤 実	6期	宮川ゼミ
"	岡田美津雄	10期	中居ゼミ
"	康 聖一	15期	醍醐ゼミ
会計部長	松原 隆二	4期	中居ゼミ
副会計部長	伊藤 正博	6期	牛嶋ゼミ
監 事	前田 勝昭	1期	岡崎ゼミ



会議活動報告

理 事 会	昭和59年4月19日
	昭和59年6月7日
	昭和59年8月23日
	昭和59年12月20日
	昭和60年2月7日
	昭和60年3月2日
	昭和60年6月20日
	昭和60年8月8日
代議員会	昭和59年8月23日
	昭和60年3月24日
	昭和60年9月5日

# 名古屋市長をはじめ 多数の来賓を迎えて 盛大な祝賀会!!



主催者挨拶

村田安雄 経済学部長

本日、ここに本山市長様始め、多数の関係者各位のご列席のもとに、経済学部創立20周年祝賀会を開催できましたことは、私ども当学部の教職員、同窓生一同の心より喜びとするところであります。

創立以来20年の間にめざましい発展を遂げ既に3000名を超える卒業生を送り出してまいりました。

幾多の困難を乗り越えて、着実に制度改革を続け、博士課程大学院を完備した経済学部として、今日あるのは教職員の研鑽に負うのはもちろん、市及び大学当局のご理解とご支援によるところが大きく、かつ同窓生のご尽力の賜物と衷心より感謝いたしております。

今夜は、皆様の御礼の意を込めまして、誠にささやかな祝宴ではございますが、どうか経済学部20歳の前途を祝し、又、合わせて明日、卒業される新同窓生の前途を祝しまして和やかにご歓談を賜わりますようお願いしまして、祝賀会開会のご挨拶といたします。



学長挨拶

柴田清人 名市大学長

経済学部創立20周年をむかえるにあたり、多数のご来賓のご臨席と関係各位のご出席を賜わり、このように盛大な記念式典を挙げてできますことは、本学に誠に光栄とするところであり、厚くお礼申し上げます。

昭和39年、従来は理科系大学でありました本学に、経済学部を加え、総合大学としての道が始まったものであります。

本学の教育方針は、時代の進歩と発展に適合し、さらにそれをリードする学風を確立するとともに、社会科学的な批判精神を堅持しつつ、日進月歩の科学技術・技術革新に適應することに絶大な努力がはらわれております。近年、教育、研究の必要から大講座制を採用し、時代の流れに即応できる体制が確立され、一層の成果が期待されております。

市立大学経済学部が、今日あるのは、ひとえに創立当時及びその後の教育・研究活動に日夜終始ご尽力賜わりました教職員各位、並びに温かいご理解とご支援を賜わりました市当局並びに関係各位の並々ならぬご努力の賜物と改めて深い感謝と敬意を表するものであります。

最後に、本日ご列席の市長様始めご来賓の各位、関係各位におかれましては、市立大学経済学部の今後の一層の発展と繁栄のために絶大なるご支援とご鞭撻を賜わりますようお願いいたしまして私のご挨拶といたします。

## 来賓祝辞

名古屋市長

本山 政 雄



市長の本山でございます。卒業生の諸君は卒業式を前にして始めて見る顔ではないかと思いますが、ひとことお祝いのご挨拶を申し上げます。

今更私から申すまでもなく、名古屋市立大学経済学部は、地元経済界を始め各方面から当地方における社会科学関係学部の必要性が強く要請されるなかにおいて設置されたものでございます。これは、設置者である名古屋市だけでなく、地元の皆様方のご努力、あるいは市議会を始めとする市民の熱いご理解とご協力の賜物であったと思います。

そして、昭和43年4月には学部の定員を150名から200名に増員するとともに、昭和45年4月には大学院博士課程の設置と、全国的にみても有数の教育・研究体制を誇り、年々その内容の充実に努めてまいりました。特に今日の情報化時代を先取りするかのように、当時としては全国的には数少ない大型コンピュータを設置するなど、情報科学の面にも力を注いだのでございます。今後設置者としましても、経済学部並びに名古屋市立大学の益々の発展のため、できる限り努力をさせていただくことをお約束申し上げます。

このたびの記念すべき20周年は、人間に例えれば成人式を迎えたところでございます。これから50年いや100年へ向けての新たな第一歩を踏み出す一つの節目にあたり、経済学部の益々の発展を心からお祈り申し上げますと共に、学長さんや学部長さんを始めとする皆様方のご努力をお願いする次第であります。

最後になりましたが、明日経済学部をご卒業され、新たな人生のスタートを切られます皆様方に重ねてお祝いを申し上げまして私の祝辞とさせていただきます。



乾杯 瀬尾進後援会長▲

前学長 高木 健太郎

現参議員議員

お目出とうございます。

他の学部のこういう会には、たまたま出ることがございますが、経済学部は何と申しましても、一学級200人でございまして、非常に大きな勢力であると思います。

現在、インポートフェアが港の方で行なわれておりますが、これは、経済学部の松永教授のご提案によるものだと承っておりますが、大変はやっておるそうでございまして、ユニークな発想が名古屋を、又、活力を入れることになる。

皆さん方もそういう先生に負けずに、一つ良い発想を持って、今後危ぶまれるこの日本の将来の経済をぜひ立て直していただきたいと、こういうふうに思うわけでございます。

今後、経済学部が発展すると共に、皆さん方の将来に明るい希望が出ますように、明るい希望を持って将来活躍していかれますように、心から念願をいたしまして、簡単でございますが、お祝いの言葉に代えます。



## 山本 安次郎 名誉教授

## 沿革紹介

牛嶋 正

私は、創立の次の年、40年から非常勤講師として参りまして、43年から48年の春まで教授として、この創立に参加したものでございます。



やっぱり色々な思い出もございますけれども、ただ一つだけ、経済学部の中で経済学科と経営学科との並立の問題について、ちょっとこの機会に思い出を申し上げたいと思います。

この問題は、私達が参りました当時、第二代目の創立委員でありましたし、第二代目の学部長をなさいました静田先生からそのことを、色々相談を受けまして経営学科を創るようなことを聞いたのでございます。

そこで私も色々考えまして、文部省での経営学科の設置基準というようなものも色々伺ったりしまして、そして、人員もだいたい五本の柱というものが必要だと言われましたが、内部的な人達で大体できるじゃないかというようなことで計画を練ったのですけれども、残念なことには、この構想は失敗に終わったということでございます。

今、この経済学部の二十周年を迎えて、新しい世界情勢、又我が国の情勢というものを考えますと、更に新しい飛躍というものが考えられなければならないじゃないかと思えます。それも、色々な継続が有ろうかと思えますけれども、経済学科と経営学科との並立の問題というものも、今後一つ新しく考えてみる価値があるんじゃないかと、考える次第でございまして、新しい一つの考え方として、この二十周年を記念して、出版を期待して、私のお祝いの言葉に代えたいと思います。

昭和39年に初めて講義がもたれたのは川澄の名古屋経専の古い校舎でしたが、42年3月には現在の学部校舎及び図書館が完成し、43年に第1回生 156名の卒業生を社会に送り出しております。この年は学部20年の歴史の中で基礎固めの年として注目されます。同年に入学定員 200名、大学院経済学研究科修士課程設置、12講座のもとでの講座制の発足がなされ、45年には大学院経済学研究科博士課程が設置されて名実ともに大学院大学に成長しました。44～47年に経営政策、計量経済学、ORの講座が増設され、現在の15講座制が完成することとなります。50年代は教育水準向上と研究活動充実といった地味な努力を積み重ねて来ました。この間ゼミナール室の増築が行なわれ、多くの若い優秀なスタッフを迎えました。教授13名、助教授12名、講師2名、助手9名は充実した陣容と言って良いでしょう。但し55年に現役教授の真藤先生を失ったことは教授会、学部にとって悲しい出来事でした。しかし将来構想もいくつか立案して来ました。経営学科の新設と都市問題研究所の設置計画です。これらは現在の財政状況のもとでは実現には難しい面がありますが、学部発展の方向付けとして立案されてきたといえます。最近では59年に現在の7講座が2大講座に移行し、公立大学の中で先頭をきって大講座制が採用されることになりました。これにより教育、研究の両面において一層の巾が出来ることになったばかりか今後ますます大学に要請される新しい役割に充分に対応出来る条件が整ったと考えられます。

経済学部は3258名の卒業生を社会に送り出してきました。卒業生の皆様は各方面で夫々活躍中であり、皆様の社会での活躍こそ、21世紀に向けての学部の発展にとって力強い原動力となるものと思われま



元事務局長  
大波多 廣 文

私の半生は市大に始まって市大に終わったと思っております。昭和37年5月に名古屋市と議会、経済界、教育界、市大の5者が集まり、市立大学総合化につき懇談会を開き社会科学系即ち経済学部設置の意向が示されました。翌年12月に3人の準備委員が委嘱され、議決がなされました。これらのことで事務上の総指揮をおとりになったのが、当時の総務局長加藤氏であり、3人準備制について大変ご助力をいただきましたのは名大学長松坂佐一先生であります。さて、この3人の準備委員、即ち京大の静田教授、名大の酒井教授、阪大の一谷教授を中心にして経済学部の設置の準備がすすめられた訳であります。さてはこの3つの大学によりかかって出来た大学だと思ったら、とんでもないことで、東は東大から西は山口大学まで20数校かけずりまわりました。

辞令を頂戴してから1056頁におよぶ設置申請書提出までの半年間、3人の準備委員のお力添えとともに牛嶋、松永、木村、金子教授等から図書のリスト等をいただきながら、大いに激励してもらいました。勿論、事務当局の同輩の絶大な支援があったことは言うまでもありません。明けて1月25日に大学の認可にあいなった訳であります。

色々申し上げましたが、長い大学の歴史から見れば、こんなことは「昭和39年4月1日名古屋市立大学経済学部経済学科設置さる」というたった1行ですむことなんです。

卒業生諸君にお願いしたいことは諸君の生涯の沿革の1行1行を大事にし、それを綴って行って下さい。ご期待致しております。

## 教養部長 生 田 博 之

20周年おめでとうございます。心からお喜びを申し上げます。

先日、友人にこの記念式典開催のことを話しましたところ、「市大の経済学部が、もう20周年を迎えるのか」と大変驚いておりましたが、この20年という数字は、大学の関係者が歴史の重みを感じる第一の段階であり、また社会が大学に対して期待する最少限の数字ではないか、と私は思う訳でございます。

この意義深い年に卒業される皆さんが、20年先、20世紀において、社会の先端をゆく指導的立場に立たれることを切に期待し、諸君の輝かしい将来を心から祝福するものでございます。



経済学部設立  
準備委員会顧問  
松 坂 佐 一

今夕は、この様に賑やかな会合にお招きいただき、大変うれしく思っております。

本学部の設置準備にあたり、当時の名古屋市の加藤総務局長から、「名古屋大学の経済学部に対抗するようなものを創ってくれ」とのご依頼がありました。私の親しい友人で、準備委員をお願いしました京都大学の静田先生も「数理経済学のような新しい方面を開拓したらどうか」ということで、まず、コンピューターが必要になりました。そこで、浅井財政局長のところへお百度を踏みまして、とうとう、20年前のあの頃としては非常に目新しいコンピューターの設置が実現したのです。

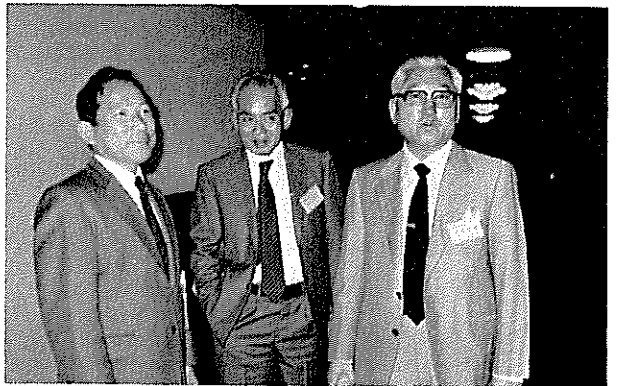
こんな訳で、創立当時の関係者には、大変新進気鋭の方が多く、それが今日の学部の隆盛をきたしたのかと思いますが、これからも

教授の方々には頑張っていただき、また、卒業生の方々にも、社会において功績をあげて

いただいて、本学部をますます立派なものに  
していただきたいと思います。



妙見教授



宮川教授 金子教授

牛嶋教授 松井教授 岩橋教授



松永教授

木村教授

○瑞山会杯争奪ゴルフコンペ

去る5月3日、瑞山会協賛第9回OB会ゴルフコンペが、瑞浪高原ゴルフクラブにて行われました。

優勝 藤原 悟 (第1期生)

二位 桜井利勝 (第1期生)

三位 富田宏彦 (第2期生)

幹事：藤原悟(1期)加賀亮(2期)



▲記念植樹 6月12日、経済学部創立20周年記念事業の一環として記念植樹が、学部玄関前で行われ、「アメリカ花みずき」が植えられた。

昭和60年度通常総会兼代議員会報告

日時 昭和60年9月5日

場所 東急イン(名古屋・栄)

経過報告 追録・会報の発行、創立20周年記念祝賀会の実施、事業部の新設

事業計画 恒例事業の他に特に事業部として

60年5月 名市大OB会ゴルフコンペ

5月・9月 蓼科ゴルフ&テニス

10月13日 名市大OB会ゴルフコンペ

上記は、春秋2回の定例化事業です。ほかにも、運動会・大学祭のOBコーナー等の意見がありますが、具体化してはおりません。皆さんのアイデアをお寄せ下さい。事業部員は次の通りですので、身近な各委員に御相談頂いても結構です。逸見和弘(1期生)、都島忠比古(3期生)、杉浦晴義(5期生)、木村新作(5期生)、加藤実(6期生)、岡田美津雄(10期生)、康聖一(15期生)

会計報告

収支決算書

収支予算書

(収入の部)

(支出の部)

勘定科目	第7期(昭和59年度)
会費収入	
新入学生	2,000,000
その他	330,000
小計	2,330,000
会費外収入	657,765
基金積立金とりくずし	0
収入合計	2,987,765
名簿発行費引当金	600,000
名簿追録発行費	137,600
会報発行費	0
總會費	460,000
新卒業生祝賀会費	0
通信費	834,460
事務運営費	395,670
その他	181,414
小計	2,609,144
基金積立金	378,621
支出合計	2,987,765

第8期(昭和60年度)
1,990,000
0
1,990,000
700,000
0
2,690,000
600,000
150,000
150,000
0
200,000
620,000
470,000
500,000
2,690,000
0
2,690,000